

## 小林きょう子候補、市内各地で気迫の訴え

日本共産党の小林きょう子選挙区候補は6月29日、市内各地を遊説。茨城県市民連合共同代表の益子絹枝さんも応援の訴えをしました。



「かわねや大宮店」前。  
右から益子絹枝市民連合共同代表、小林きょう子候補、金子卓議員。



「かわねや大宮店」前で小林候補の訴えを聞く支援者



「北斗星」前



「緒川総合支所」前

## 市内産農産物の販売状況を質問



日本共産党の金子卓議員は6月議会の一般質問で、道の駅「常陸大宮」がオープンして2ヵ月が過ぎた現在の市内農産物の販売状況を質問しました。

「オープンから5月末日までの総売り上げは約2億1400万円でそのうち農産物(含む加工品)の売り上げは約7400万円。市内農産物の売り上げ(出荷部会)は約4000万円で農産物売り上げの54%となっています」と答えました。また、出荷部会員は5月末現在で197人

が登録されており、出荷実績のある人数は149人とのことでした。

道の駅「常陸大宮」の出荷量が増えた分だけ、市内農産物直売所の売り上げが減ったのでは困りますと金子議員は、市内3ヵ所の直売所の昨年度の4月と今年度の4月の比較を質問しました。

「大宮グリーンハウス」の売り上げは約600万円で昨年4月度比97.8%、道の駅「みわ」が約760万円で96.8%、「かざぐるま」が410万円で95.2%と答えました。

金子議員は、市内産農産物の生産拡大、また、特産品認証制度、洋野菜や6次産業化商品のエゴマ油等の生産拡大に市としてどのように取り組んできたのか、今後どのように振興していくのか質問しました。

最後に、道の駅「常陸大宮」を運営している「元気な街づくり株式会社」の運営方針について、「道の駅」基本計画で、農産物直売施設では「農産物については地元産及び隣接地域の野菜などの直売を基本とします」とあることを取り上げ、社長である市長に確認をし、しっかり守っていただきたいと強く要請しました。

6月23日付「茨城新聞」

## 常陸大宮・道の駅 滑り出し上々 眺め良好、農産物充実



久慈川を眺めながら屋外で飲食する客も多い道の駅常陸大宮・かわプラザ＝常陸大宮市岩崎

今春、常陸大宮市岩崎に開業した「道の駅常陸大宮・かわプラザ」は、多くの来訪者が詰め掛け、上々の滑り出しを見せている。久慈川や奥久慈の山々を一望できる好ロケーションが人気で、約2カ月間で買い物や飲食した客は約22万人(5月末現在)、売り上げは2億1400万円を超える。運営する第三セクター「元気な街づくり」(社長・三次真一郎市長)は年間売上高4億5000万円の当初見込みを、約3割増の5億9000万円に上方修正した。

## 開業2カ月で来客22万人

かわプラザは県内12ヵ所目の道の駅として、3月25日にオープンした。久慈川に隣接し、敷地面積5・6畝は県内最大規模で、全国でも生産量の少ない洋野菜の地産地消などが認められ、国交省の「重点道の駅」にも選定された。

好立地や充実した農産物が評判を呼び、平日でも農産物や特産品の買い物客、レストランなどの飲食客が引きも切らない。休日には駐車場が渋滞するケースもある。遠藤修平駅長は「道の駅巡りを楽しみにする中高年も多く、安定した売り上げ」と話す。レストランでの新たなメニュー開発、広い敷地を生かしたイベント実施で、好調な売り上げを維持する計画だ。

飲食は旬の野菜を使った昼食を予定する。「地場産の野菜で、家庭では出せない味を提供したい」(遠藤駅長)と意気込む。地元産ブルーベリーを使った、新たなスイーツも売り出す。イベントは茨城大の学生の協力で、大きな七夕飾りを計画。浴衣での来場者の特典も考えている。子ども向けのイベントを通して、家族で「食と遊」を楽しんでもらう方針だ。

9月17日から始まる東北芸術祭では、久慈川を望む屋外に彫刻が設置され、ハード、ソフトの両面作戦が続く。(蛭田稔)